

ぶっく てらす

コスモス号

2学期が始まって、なお残暑の厳しい日が続いていますが、朝夕のしばしに吹く風には心地よさが感じられるようになってきました。校舎内の1階の機能がほぼ戻りつつあり、廊下を歩く子どもたちの顔も喜びにあふれています。

さて、夏休みの23日・24日には、図書室整備を行いました。学校内の人材ではなかなか不十分な廃棄（情報の古い本や痛みの激しい本などを見極めて処分する）作業や、分類ごとに整理する（本の種類や目的、作者などによって並べる）作業を二日間で31名のボランティアさんが関わっていただきました。「JLA（日本図書館協会）」の方々を中心に、「NPO 法人CFF（ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン）」の方々、1階への引っ越し作業からお手伝いいただいた「プロジェクト結」の皆様方（関東の方が多く遠くは京都・富山・岡山・福岡県からの方）です。もちろん、そのコーディネートをしてくださったのが、東松島市図書館副館長の加藤さんです。その頃は、学校内には様々な工事関係業者が出入りしていたこともあり、作業への気持ちを一つにするために皆が「東松島災対本部」のピブスをつけて汗だくになりながらの活動でした。より本を手に取りやすくするために、子どもたちの喜び顔を思い描きながら、たくさんの方々活動してくれたことをご報告させていただきます。



抜き取った本の廃棄リスト作成中



【23日の作業メンバー】

「がんばるぞー」の気合いポーズで始まり…



本の表にフィルム貼り



紙芝居も丁寧にそろえ



【24日の作業メンバー】

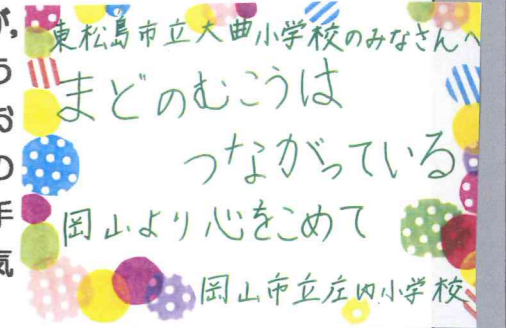
鼓笛練習の音が校庭から聞こえ、しばしだけ聞き惚れていました。

☆すてきな窓飾りをいただきました☆ ~ありがとうございます~

先のJLAからのボランティアさんの中に、岡山県の庄内小学校の横山先生（司書教諭）がいらっしゃいました。以前にも、「四つ葉のクローバー」をモチーフにしたメッセージ



などを支援していただいたのですが、今回は、さらにパラフィン紙のような素材の色紙で窓飾りを作成してお持ちいただきました。2学期最初の図書委員会の日に、子どもたちの手で図書室の窓に飾り、岡山からの気持ちを子どもたちにも伝えました。



さて、これは なあに？



図書館振興財団からの支援金で購入しました。



用務員の今野さんが作成中

校舎内の各所に置いて活用することにしました。9月9日の奉仕作業の折にも探してみてください。

おすすめの本

「十歳のきみへ」～九十五歳のわたしから

（日野原 重明 著：富士房インターナショナル）

医師としての生涯の晩年を、日本全国の学校を回り「いのち」の授業をなさった方の著書です。各地で反響を呼び、著書も多いので目にした方もいるかと思いますが、本文をそのまま紹介したいと思います。図書整理の折に見つけ、是非読んでほしいと思いました。（中略での記載です）

（本文）ほかの人のために きみはどれだけの時間をつかっていますか？

ほかの人のために時間をつかうのはかんたんなことのように、じつはこれがなかなかたいへんなことなのです。しっかりと意識して、しかも、そうするための努力をしなければできません。休み時間に校庭でころんでけがをした友だちに肩をかして、保健室まで行ったよ…。そう、きみは友だち思いですね。きみが今日一日したよいことを数えたならば、もっといくつもあげられるでしょう。 ~という具合に寿命のこと、人間のすごさ、本人の十歳の頃のお話などが~